家庭教育学級だより

土浦小学校家庭教育学級
平成 24 年 9 月　7 日発行

小学生になって初めての夏休み。楽しい思い出をつくり，新学期を迎えたことと思います。
夏休み前の７月 19 日，平成 24 年度第３回家庭教育学級として，「子どものメンタルケア講座」を開催しました。学校との連携，勉強法，子どもとの接し方等についてお話を伺い，子育てに関するたくさんのヒントを得ることができました。概要をご紹介します。

1.中野比呂志教務主任

(1)学校と家庭のパイプ

- 学校とのパイプは，PTA や家庭教育学級
- 顔が見えることの重要性
  お父さんやお母さんの顔が見えると，コミュニケーションがとりやすい。
- 問題が起きたときの対処法
  来校又は家庭訪問などで対応可能なので，随時相談して。

(2)勉強法

- 何時から始める？
  小学校低学年のうちに，学習習慣を身に付ける。中学生になってからでは，部活などで忙しくなる。親の言うことを素直に受け止める低学年のうちがチャンス！
- 何をする？
  低学年のうちは，親が課題を与える。音読や読み聞かせがお勧め。音読の時は，聞いてあげて。聞いてあげることが，子どもの励みになる。
- 学習の場は？
  人目のあるリビングで OK。その代わり，TV を消して。
- 教え方は？
  先生と親（自分）の教え方が違うときは，親のおしえ方で OK。必要に応じて，親から先生に質問も OK。質問の時は，付箋を上手く利用して。

(3)言葉遣い

- 親の言葉遣いが影響する
  遣い方がわからないままに遣っていることも。
- 家庭で
  「おはよう」などの挨拶を実践して。

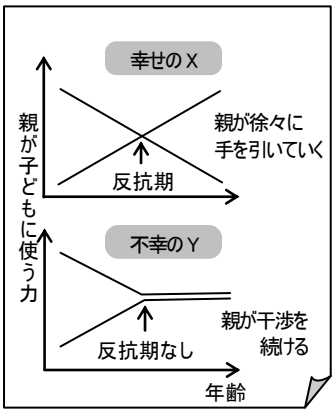
2.會田照行教頭

(1)幸せの X，幸せが遠のく Y

- 子どもの年齢にあわせた親の関わり方

「〇〇のし過ぎ」は，子の自立を阻む。反抗期が重要。

1～2 年生
　：手をかけて OK
3～4 年生
　：徐々に任せる
5～6 年生
　：本人に任せる



(2)聴くことの大切さ

- 感情を引き出す
  意識して発する言葉は本音ではない。無意識の感情を如何にして引き出すか。
  〔例〕　感情は【怒→哀→喜→楽】と進む。
  怒りの感情を現したときは，その理由を聞き出す。「何に怒っているの？」そして哀→喜…
- 「聞いてもらえた」と思うような聞き方を
- 「今」を大切に
  子どもが「聞いて」と来たタイミングを逃さずに。できなければ，後で時間をつくることを，その場で約束する。スキンシップも良い。

(3)「私」の思いを伝える

（子どもがしたことに対して）
「私は悲しかった」などと伝える
＝子どもを責めていない言い方
1～2 年生：分別がつかない
3～4 年生：分別はあるが，「してしまう」時期
5～6 年生：分別がついてくるので，きちんと教える

講座終了後のアンケートでは，「自分の子育てを振り返るきっかけになった」，「もっと話を聞きたかった」，といった声が多く寄せられました。受講者それぞれが，日々，悩みや疑問を持ちながら子育てをしている様子が伺えます。そんな時，「何かあったら相談してください。」といってくださる先生方は，強い見方です。自分たちだけで悩まず，教えることの「プロ」である先生方に，いろいろ相談してみませんか？

今後の予定

9/14（金）　ヒップホップ講座
10/19（金）　料理講習会
11/17（土）　親子ふれあい活動
（終了後，授業参観）